

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

第67回「アジア楽・入門」

最近の私はアジアを中心に活動している。インターネットのおかげで、各地の友人といつでも連絡が取れるのは、便利で楽しい。

【台湾：パソコンの島】

私がアジアのなかで最初に訪問したのが台湾である。台湾の漢字は繁体字、つまり日本の旧漢字と同様だ。これは日本人にとって読みやすい。ただし台湾が台湾となるから、油断は禁物。

台湾は世界のパソコンの製造基地である。その有力メーカーの社長によると、パソコンの製造は儲からない商売だという。ある種の部品の製造は寡占状態で、入手が困難な場合すらある。さらに製品の輸出先の販売は、その現地の会社に任せるほかはない。製造業者は部品と販売の板挟みになる。

台湾はインターネットが盛んである。先の総統選挙のあとに、一時は首相に就任すると言われた李遠哲博士（ノーベル賞受賞者）は熱心な推進者として知られている。台湾が、パソコン製造基地からIT（Information Technology）の利用技術全般に飛躍しようとしているのは当然の動きであろう。

私が台湾でおすすめする買物は、凍頂烏龍茶。緑色の烏龍茶で、独特の香りがある。

【韓国：意気盛んな隣国】

韓国文化は日本に近い。それは当然のことである。日本は中国文化圏に属する。中国文化は朝鮮半島を経由して日本に入ってきた。ソウルの景福宮を見ると、奈良の寺院の構造に似ている。ナラというのは韓国語では国を意味する言葉である。

宮殿だけではなく、現代生活も韓国と日本は似ている。入出国のカードの体裁は同じ。金浦空港からのリムジンバスは、ハンゲルが読めなくても、半券で想像がつく。私の友人はJをKに置き換えれば大体的見当が付くと教えてくれた。JALはKALになる。

インターネットの発展も日韓両国は似ていたが、最近の違いが見られる。インターネットのゲームセンターが韓国では1500か所もある。無料の国際電話を提供する会社が急成長している。いわゆるベンチャー企業は日本よりも盛んかもしれない。私の友人の、韓国通信の若手技術者や韓国科学技術院の大学院生は、いずれも新規の企業に移った。プロバイダーの社長だった友人は新しい会社を興した。

韓国での私のおすすめは、まず本場のロッテチョコレート。特にガーナチョコレートはハンゲルの字が大きい。それからヒマワリの種をチョコレートで包んだお菓子。これはカラフルで楽しい。

【シンガポール：クリーンなITの島】

シンガポールの風景はアジアらしくない。なぜかという道路にゴミがなくて、とてもきれいなのだ。ゴミがないのはリー・クアンユー元首相の提唱した「クリーン and グリーン」の成果である。街に緑の植物が多いのもグリーンの結果だ。

シンガポールは街を歩いていても英語が普通に通じってしまう。これもアジアの雰囲気とは違う。英語を重視するのは、いわば国策である。シンガポールに生まれると中国人でも、マレー人でも、インド人でも英語を学ぶ。公用語が英語、中国語、マレー語、タミル語と4つもある。この英語政策が、現在の国際情勢ではシンガポールに有利に作用する。

観光地としてのシンガポールは、日本人をあまり引きつけず、風土はハワイに似ているのに、日本人観光客が少ないのはなぜか。私の友人の結論は、シンガポールにはビーチがないからだとした。しかしビジネスでシンガポールを訪れる日本人は多い。ある意味でアジアの中心となっている。

私はシンガポールには日本にない特徴があると感じる。それは国の存在というものが、シンガポールという小国では濃厚になることである。ITが国策として鮮明に打ち出されていて、その迫りに圧倒される。

【香港：競争と活気】

香港は中国の一部だ。しかし、今でもHKというドメイン名が使われている。香港のインターネットの状況は、シンガポールと対照的である。シンガポール政府は、これまでプロバイダーの数を3つに制限してきた。香港ではプロバイダーの数をカウントするのは不可能と思われるくらいに多数の通信事業者がある。シンガポールも香港も、インターネットの普及度から見ると、以前から日本を上回っている。

私は香港が中国に返還される直前に、香港の大学を訪問したことがある。そのときに私が驚いたのは、中国語、つまり普通話（北京語）の学習塾が街でブームになっているということであった。私は、中国語における北京語と広東語の差異を再認識した。さらに中国語を独学するのが難しいことを悟った。香港の人が塾に通うとは。

香港と日本には、共通点があると思う。それは美味しい食べ物にこだわるという点だ。もちろん、どの国にも美味しい食事がある。しかし、香港の食事は別格のように思う。残念ながら私には情報が不足しているが、現地の友人に案内してもらおうと、実に香港は不思議な美味しい街である。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp